

「外環の2」練馬3キロ区間

幅員22メートルで建設 都が方針

住民強く反発

地下を通る外郭環状道路（外環本線）の地上部に計画されている「外環の2」については都は14日、練馬区内の3キロ区間を2車線、幅員22メートルとして建設する方針を発表しました。武蔵野市や杉並区では、都市計画の廃止を含めて、都と住民代表による「話し合いの会」での検討が続いている中、見切り発車的に練馬区内の区間だけ既成事実化していく都の姿勢に、多くの住民から反発の声が上がっています。

「外環の2」（目白通りから東八道路までの約9キロ）は高架方式で計画された外環本線の土台部分の「死に地」を有効利用した地上部道路として1966年、外環本線と同時に都市計画決定。住民の激しい反対に計画は進まず、2007年に外環本線が地下方式に変更されました。「外環の2」については沿線区市ごとに、都と住民などによる「話し合いの会」で、必要性やあり方について、都市計画の廃止を含めた検討が

続けられています。ところが都は、2012年9月、外環本線の練馬ジャンクションと重なる練馬区の1キロ区間の事業認可を受けて工事に着手。続いて昨年12月、練馬区の3キロ区間について、「廃止」の選択肢をなくしたうえで、幅員40メートル、22メートル、18メートルの3案を提示。今回、幅員22メートルにする方針を決定し、建設

強行の姿勢をあらわにしました。

「とめよう『外環の2』」と、都は今後、住民説明会などを経て、現在の幅員40メートルと和美美さん（74）は「住民を無視していいよ強行する」という都市計画の変更手続きを進めることになっています。都の姿勢を示したものだ。

住民の理解得られない 計画は中止を

松村友昭都議（練馬区選出）の話

「外環の2」建設で立ち退きを迫られる人の不安、さらに関静な住宅街が分断されること、高齢者の日常生活に多大な支障をきたす

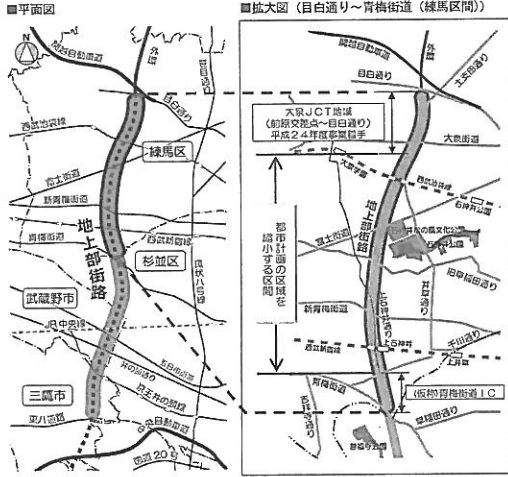


松村友昭都議

こと、学区が分断されること、子どもたちの交通事故の心配、自然豊かな石神井公園の昆虫や鳥、植物への影響、さらに莫大な税金投入など、多くの問題が住民から出されています。都は、住民の声を聞いて計画を進めているというが、住民説明会では反対の声が多数です。今回発表された「意見に対する都の見

解」は、こうした多数を占める反対意見をすべて黙殺しています。住民の不安、疑問に心えることなく、建設ありきの拙速な進め方は許されません。

練馬以外の区市では、「外環の2」の廃止も含めた検討が行われており、練馬区だけ切り離して、既成事実化する姑息な都のやり方への批判は強まらざるを得ません。住民の理解と納得を得られない計画を中止させるため、引き続き追及していきます。



都の発表資料より。外環の2全体図（左）と練馬区間